

## 令和4年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

「一人ひとりの花を咲かせよう！ そしてともに輝こう！」をキャッチフレーズに、  
児童生徒一人ひとりが日々輝き、卒業後にいきいきと社会生活を送ることができるよう、  
以下の学校づくりを行う。

- 1 知的障がい教育の理論と実践の積み重ねに裏付けられた専門性の高い教育を行う学校
- 2 保護者や地域の人たちとともに児童生徒の一つひとつの成長を喜び合う学校
- 3 教職員がいきいきと働く学校
- 4 地域の小中学校等が自立して支援教育を推進することをサポートする学校

## 2 中期的目標

1 知的障がい教育の専門性向上＜学校教育自己診断の保護者評価「指導方針に共感」R6:90% [R1:83%、R2:87%、R3:87%]＞  
キャッチフレーズ：「寝屋川支援プライド ～誇りをもって～」

(1) 卒業後の自立に向けた生徒一人ひとりに応じた教育を実践する（自閉スペクトラム症の特性に応じた指導・支援を含む）

- ア 正確なアセスメントを行う
- イ 社会でも継続した支援を受けることができる教材・教具の工夫を行う
- ウ 児童生徒が自発的・主体的に学習できる環境づくりを行う
- エ 児童生徒の達成感・自己肯定感を育成する
- オ 小中学部からのキャリア教育を支援する
- カ コース制での学習の充実
- キ 卒業後の社会参加と自立を見据えた効果的な進路指導
- ク 個々に応じた自立活動を進める
- ケ 時間割・シラバスを再編する
- コ 小学部・中学部・高等部の「個別の指導計画」統一様式に改訂する

(2) 時代にマッチした教育理論を構築する

- ア 「自立活動」を再考する
- イ 応用行動分析に基づく指導支援を行う
- ウ 新生活様式に応じた教育を検討・展開する
- エ 生徒自身がスキルや情報モラルを習得できるICTを活用した取組みを推進する
- オ 生涯にわたって学ぶ姿勢を支援する
- カ 自助の力を育てる防災教育に努める
- キ 人権感覚を育む

(3) 次世代教員を育成する

- ア 人権感覚を高める
- イ 経験の少ない教員を支援する
- ウ 将来の管理職候補を育成する

2 保護者・地域・関係機関との連携＜学校教育自己診断の保護者評価肯定的評価（全体平均）R6:88% [R1:78%、R2:85%、R3:84%]＞

キャッチフレーズ：「分かり合い ともに子どもを 育てよう！」

(1) 保護者との連携を深める

- ア 年度の早期に信頼関係を構築する
- イ 保護者が悩みを相談できる機会を作る
- ウ 保護者から学ぶ

(2) 地域・関係機関との交流・連携を推進する

- ア あいさつ運動を展開する
- イ きれいな地域づくりに貢献する
- ウ 自主単独通学生徒を増やす

(3) よりわかりやすくスピーディーな情報発信を行う

- ア ぼかしなしの情報発信を行う
- イ 通学バスの位置情報を提供する

3 働き方改革＜学校教育自己診断の教職員肯定的評価「業務の効率化・平準化」R6:60% [R3新設:51%]＞

キャッチフレーズ：「魅力ある授業づくりは教職員の健康から！」

(1) 同僚性の高い職場づくりを行う

- ア 適材適所の人事配置を行う
- イ 学びあう雰囲気を作り出す

(2) 業務の効率化・平準化を行う

- ア デジタル化を推進する
- イ ペーパーレス化を推進する
- ウ 物品の管理・整理方法を見直す
- エ PC内の構造化と仕事の見える化を行う

(3) 業務推進体制を再構築する

- ア 首席を学校経営の要として配置する
- イ 校務分掌の配置人数を見直す
- ウ 各部署が学校経営に自律的に参画する

4 地域支援 ＜相談実施後の「訪問相談・来校相談アット」における肯定的評価 90%以上維持 [R1:90%、R2:90%、R3:90%]＞

キャッチフレーズ：「地域の自立をサポート！」

(1) 北河内支援学校相談サポートセンター（KSC）による「研修サポート」を行う

- ア 「支援教育公開講座」を行う
- イ 研修講師の派遣を行う

(2) 北河内支援学校相談サポートセンター（KSC）による「相談サポート」を行う

- ア 悩みを共有し「KITADE」を活用しながら実践のサポートを行う
- イ オンライン相談を行う

(3) 学校全体で地域支援を行う

- ア 「登録相談員」による地域支援を行う

## 府立寝屋川支援学校（高等部）

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 4年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>1. 結果の概要 保護者対象のアンケートでは、回収率が昨年度の80%に比べると2ポイント増加した。回答結果については、肯定的意見が90%以上の項目が4項目あった（昨年度より1項目減）。また、保護者全体の「肯定的評価」の全体平均は、79.25%である（-4.4ポイント）。教員対象のアンケートでは、回収率は、全体としては98%と昨年度より-1ポイントとなっている。教職員全体の「肯定的評価」の全体平均は、75.3%（+0.5ポイント）であった。</p> <p>2. 結果と分析</p> <p>○学校に対する意識に関するもの 保護者は「1：子どもは、学校に行くことを楽しみにしている」の項目で81.3%（-1.5ポイント）と、昨年度と比べると若干減少している。さらに、児童生徒や保護者の願いに応えられるよう取り組んでいく。</p> <p>○児童・生徒指導に関するもの 「6：運動会、学習発表会や校外学習、修学旅行などの学校行事は、子どもたちが参加しやすいように工夫されている」では、93.9%と肯定的意見が90%以上となっている。</p> <p>○児童生徒理解に関するもの 「3：教職員は、子どもの障がいについて、よく理解している」では、87.4%（-4ポイント）と大きく減少している。また、「8：教職員は、日常の教育活動において、子どもの人権を十分に尊重している」という項目でも、86%（-2.8ポイント）となっている。引き続き児童生徒一人ひとりの理解に努めていながら、原因を分析し改善していく。</p> <p>○学習指導・教育活動に関するもの 保護者項目「4：子どもは、授業がわかりやすく楽しいと言っている（感じている）」は、71.6%と-5.2ポイントとなった。また、同項目で「わからない」と回答している保護者が21.9%（昨年度より7ポイント増）おられることから、お子様の授業の様子がよりわかるように、学校と家庭と共有できる取り組みが必要である。教職員の「10：教員間で授業見学をし、授業方法等について検討する機会がある。」に関しては、62.8%（+6.4ポイント 2年間で+12.4ポイント）と着実に肯定的意見が増えてきている。教職員項目「10」に関しては様々な取り組みを行っており、例として指導教諭が学部関係なく授業に入ることや、初任者等とは授業研究も一緒に行っている。また、授業検討では、学習指導要領を根拠とした検討の流れを教頭や指導教諭が作っており、その検討内容をまとめた事後報告のニュース配信などがある。</p> <p>○道徳教育・人権教育に関するもの 保護者は「7：学校は、子どもの発達段階や実態に応じて、生命を大切にすることや社会ルールを守る態度を養おうとしている」で肯定的意見が86.3%（+2ポイント）、教職員は「すべての教育活動において、人権尊重の姿勢に基づいた支援・指導がおこなわれている」で肯定的意見が84.0%（+1.9ポイント）となっている。また、教職員の「6：カウンセリングマインドを取り入れた生活指導を行っている」では、今年度87.8%（4年間で+14.5ポイント）となっている。全教職員で、お互いに助言しあえる同僚性を意識していくよう取り組んでいるが、成果が少しずつ表れてきている。引き続き、児童生徒への道徳教育・人権教育はもちろん、教職員の支援・指導をさらに見直していく。</p> <p>○進路指導に関するもの 保護者項目「9：学校は子どもの将来の進路や職業などについて、発達段階や実態に応じて適切な指導や助言を行っている」では、全体で71.6%（-5.2ポイント）となっている。内訳を見ると小学部61.3%（-7.7ポイント）、中学部83.4%（+7.4ポイント）、高等部80.4%（-7.6ポイント）となっている。これまで高等部段階を中心に進路等に関してお伝えしていたが、現在中学部段階から知る機会を増やしていることが要因と考えられる。高等部では、自由記述の中で「具体的な内容のわかりにくさ」をご指摘いただいているものもあった。引き続き、発達段階に応じた進路指導、説明・共通理解をはかっていきたい。</p> <p>○いじめに関するもの 保護者対象「10：学校は、いじめについて困っていることがあれば真剣に対応してくれる」、教職員対象「7：いじめ（疑いを含む）が起こった際の体制が整っており、迅速に対応することができる」に関する項目は、保護者の結果は肯定的意見が53.6%（-4.5ポイント）、教員は71.8%（+5.1ポイント）となっている。ただし、保護者の「わからない」の回答が41.7%（+2.7ポイント）であり、その他の項目と比べると突出して多くなっている。教職員へは、「防止に関する取り組みや対応方法（「学校いじめ防止基本方針」）については認知が進んできたが、保護者にもさらに周知を図っていく。なお、現時点ではいじめについては確認ができていないが、今後も早期発見・早期対応を心がけていく。</p> <p>○学校組織に関するもの 「コンピュータ等のICT機器が各教科の授業などで活用されている」が93.6%（3年間で+17.5ポイント）であり、実際授業等の中で、ICT機器を活用する機会が年々増えている。しかし一方で、新設の保護者項目「学校は1人1台端末を効果的に活用している」では、肯定的意見が34.5%、「わからない」が54%となっている。学校の取り組みの情報発信とともに、さらに校内での有効な取り組みの共有や、効果的な活用についての研修などを進めていく。</p> <p>「13：教職員の適正・能力に応じた校内人事や校務分掌の分担がなされ、学校経営に教職員の意向が反映されている」については、昨年度からさらに下がり44.9%（-4.5ポイント）である。また、「24：学年・学部・分掌において、業務の効率化や平準化を行っている」では55.1%（-2.6ポイント）とこちらも低い。業務の効率化や平準化については色々な場面で進めているが、実感まではしていない様子である。これらの項目には複数の要素が盛り込まれているため、評価が低い原因については他のアンケート等で確認をしている。現在は校務分掌の分担の見直し等も進めている。</p> <p>○地域との交流推進 「15：学校は地域とのつながりや交流の機会を設定している」では、+6.5ポイントの69.4%となっている。コロナ禍でできていなかった交流等が少しずつ再開し、またこれまでなかったオンラインでの交流も実施している。</p> <p>○情報発信 「5：学校は、教育情報について、提供の努力をしている」は、87.4%（-0.6ポイント）、「13：学校はホームページや緊急連絡システムを通して、情報をわかりやすく発信している」では、91.7%（-2.7ポイント）となっている（教職員96.2%+2ポイント）。学校での普段の様子のさらなる情報発信を求める声がある。</p>	<p>【第1回 令和4年7月7日（木）】</p> <p>●防災への取り組みについて ・教員側だけではなく、子どもたちへの取り組みが大事。子どもたち、保護者の思いや考えを防災教育に反映していくことが大切。防災備品を子どもたちに用意させる、ハザードマップを調べる学習、校内の危険箇所の確認などの授業が想定される。 ・防災教育についてはICTの活用とも関連している。ポストコロナで新しい生活様式となり、色々な工夫が求められる。防災科のある高等学校とオンラインで交流するなど、他校との連携も進めていけるとよい。 ・防災は合理的配慮の観点に入っている、命を子どもたち自身が自分で守れる環境をつくるのが一つのポイント。学校として防災の環境を作るだけではなく、子どもたち自身が防災について学ぶ機会をつくるのが重要。</p> <p>●経営計画について ・経営計画についてのアイデアが、教員から発信したものを結集しており、先進的な学校経営計画だと感じる。 ・キャッチフレーズを取り入れられており、わかりやすくセンスがある。 ●PECS（絵カード交換式コミュニケーションシステム）について ・保護者も活用できるように教えてほしい。母が学び、家でも使うことで、父、祖母も使うようになっていった事例もある。 ・保護者の方も利用したいという声があることが大事。学校では教員のツールという考え方がある。保護者もツールを活用できると、家庭地域において、子どもたちの自立につながっていく。</p> <p>●教科書について ・学習指導要領が改定され教科が明確になっている。段階的な活用になるが、デジタル教科書も推進してくと良い。</p> <p>●進路について ・企業としての障がい者雇用率は2.3%になっており、多様性も受け入れる方向になっている。 ・寝屋川公園の清掃活動については、実施しにくい時期もあるが良い活動である。</p> <p>【第2回 令和4年11月10日（木）】</p> <p>●学校像について ・寝屋川支援学校の「めざす学校像」の「一人ひとりの花を咲かせよう！そしてともに輝こう！」のキャッチフレーズは子どもの良さを伸ばしていく学校づくりが想像されてとても印象的である。支援学校卒業後の目標の位置づけを「自立」として、どうやって一人で生活をしていくのか、専門性を高めている寝屋川支援学校には支援の見本が兼ね備えてある。研修の充実性など様々な取組みを地域の学校も勉強させていただいている。</p> <p>●中期的目標について ・多岐にわたる質の高い取組みである。支援学校はそれぞれに色があり、障がいの特質によるところがある。力を入れている所が見えてくるとポイントがわかり更に質が高まる。今後、何を軸にしていくか、キャリア教育をベースにどう展開していくか、どう特色を出していくか、寝屋川支援学校はどうしていくのか、子どもたちの将来像を見据えた実践的な取組みをしていく必要がある。</p> <p>●進路について ・支援学校の雇用を推し進めているところである。コロナ禍で行事が中止になっていたが、高等支援学校での文化祭などで地域との関わりができるようになるのは就労にもつながる。学校として、感染への警戒は必要であるが就労の道筋を作るのも大事。</p> <p>●情報伝達について 多岐に渡る取組みを家庭にどうお伝えできるか、どうすれば良いか、一人ひとりの成長をサポートしていかうとしているが伝えられていない現状がある。課題であり、悩みでもある。寝屋川支援学校はきめ細かい取組みをしている。課題を浮き彫りにして学校として前を向いた姿勢を評価したい。</p> <p>【第3回 令和5年2月16日（木）】</p> <p>●カリキュラムマネジメントについて ・40分授業であれば、切り替えが早くなるが、時間の活用も工夫次第でできる。また、自閉症の生徒が見通しを持ちやすくなる。 ・高等部の生徒であれば、一定時間作業に取組むことも必要であるため、美術や作業を行う授業などは、40分で切るより連続した授業を設定した方がよい。 ・個別の計画については、カリキュラムマネジメントと絡めている学校があるので、個別の計画をどう繋いでいくかが重要になってくる。</p> <p>●学校アンケートについて ・運動会や学習発表会など評価が上がっている。学年が絞られるので、見やすくよい。修学旅行もタイムリーに様子がわかり、楽しい姿を見ることができて良かった。 ・端末の活用については判断する場所がない。保護者にも取組をわかりやすく伝えられるようにしていただきたい。 情報の発信はとてもしていると思うので、これ以上はどのようにするかは難しいだろう。 ・ICTについての質問は、保護者は理解しにくいので、わかりやすい質問にすれば良いかと思う。 ・寝屋川支援学校の先生が非常に熱心に取り組まれていて、教材研究もしっかりされている。そのようなところが保護者に伝わる仕組みを作れば良いのではないかと思う。 ・否定的な部分については、本校だけではなく、府全体の課題になっていると思う。</p> <p>●キャリア教育について ・キャリア教育プログラム、シラバス、ペスク、ICTなど、一つひとつに専門的な知識が必要なことが多いので、継続して行ってほしい。 ・個別の計画やPISA、学習指導要領の3観点を入れたり、キャリア教育を入れているところもある。 ・次年度の高等部でキャリア教育プログラムを推進していくということもあるので、そのような取組みを軸としても良いと思う。 ・キャリア教育については、消費者金融の課題なども含めて、ライフキャリアと絡めて取り組んでほしい。</p>

## 府立寝屋川支援学校（高等部）

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標 ＜推進部署＞	具体的な取組計画・内容 (「 」内の太字下線部分はキャッチフレーズ)	評価指標[R3年度値]	自己評価	
1 知的障がい教育の専門性向上	(1) 卒業後の自立に向けた生徒一人ひとりに応じた教育を実践する(自閉 <sup>※</sup> ・外 <sup>※</sup> 症の特性に応じた指導・支援を含む)	(1)	(1) 学校教育自己診断の保護者評価 「障がい理解」90%以上[87%] 「授業は楽しい」75%以上[71%]	<b>中期的目標全体</b> <b>「指導方針に共感」83% (△)</b> 「障がい理解」84% (△) 「授業は楽しい」66% (△)	
	ア 正確なアセスメントを行う ＜支援部・高等部＞	ア <b>「明日を拓くキャリア教育プログラム！ さらなる活用をめざして！」</b> ・全校で「キャリア教育プログラム」によるアセスメントを行い、グループ編成等に積極的に活用する。	ア ・全校における「キャリア教育プログラム」によるアセスメントを継続実施 ・プログラムを職業に関する授業の適切なグルーピングに活用する。		・アセスメントを全学年で実施。2年次より実施コース制授業のグルーピングには活用できたが、進路との関連が少ないため、次年度はデータを蓄積していき、保護者との懇談でも活用を促していく。(○) ・夏季に研修を2回実施。1回目2回目ともに約92%の満足度。中3→高1引継ぎ済み。高1教員1名 PECS 講座受講済み。定期的な活用がないため、次年度はアセスメントにより適応可能な生徒に対し継続的な実施をしていく。(○)
	イ 社会でも継続した支援が受けられる教材・教具の工夫を行う ＜支援部・担当首席＞	イ <b>「コミュニケーションを広げよう！」</b> ・PECS（絵カード交換式コミュニケーションシステム）の導入を拡大し活用する。	イ ・PECSに関する研修を2回以上実施 中3から高1へ PECS 活用生徒の支援方法について引き継ぎを行う。		・10年等の経験者による授業研究の際に自発的・主体的な学びを意識した授業づくりを実施。また全教職員へ向けて「授業ダイジェスト」「研究協議まとめ」として研究協議で検討した内容を知らせた。次年度はアナウンスを適宜行い一層周知していく。(○)
	ウ 児童生徒が自発的・主体的に学習できる環境づくりを行う＜全校・支援部・指導教諭＞	ウ <b>「子どものやる気スイッチON！」</b> ・児童生徒が「できる」教材の工夫を行うとともに視覚的支援（スケジュール・タイマーなど）により、自発的・主体的に学ぶ環境を整える。	ウ ・初任者・10年経験者による自発的・主体的に学ぶ環境づくりをサブテーマとした研究授業の実施。(対象者全員)		・各学年移動式のパーテーション設置した。年度当初に教材庫の整理を行い、必要な教材を各学年に設置。使用しやすくなったため、次年度は活用を促進させる。(○)
		<b>「授業に全集中！」</b> ・生徒が授業に集中できる教室の環境整備に努める。	・座学で使用する高等部教室のパーテーション設置と高等部教材庫の整備		・研究授業においての環境設定・課題設定を授業者とともに検討している。「できる」「ほめる」場面が増えた。次年度も継続していく。(○)
	エ 児童生徒の達成感・自己肯定感を育成する＜全校＞	エ <b>「わかる・できる・ほめる！」</b> ・「ほめる」場面を作るために児童生徒が「わかる」伝え方、「できる」課題設定を行う。	エ ・各授業において、各児童生徒のほめの場面5回以上（准校長の授業観察時及び研究授業の振り返り時に確認）		・生徒会の役員で運動会のスローガンを考え作成した。生徒からは先輩に対する尊敬や感謝に関する言葉が聞けた。次年度も目標となる多くの先輩と出会える交流を促進していく。(○)
	オ 小中学部からのキャリア教育を推進する＜全校・児童生徒指導部＞	オ <b>「～絆～小中高みんな仲間！」</b> ・児童・生徒会が同じ目標をもって活動する <b>「そうだ、先輩に聞こう！」</b> ・他学部と自立活動等で交流を行い、一緒に活動を行う中で共に学ぶ機会を設ける。	オ ・各取組みにて、先輩の姿を見た後輩から「あなりたい」との感想を得る。 ・児童会・生徒会とともに全校行事のスローガンを作成する。 ・学期に1回以上、学部間で交流する。		・校内実習は2・3年生で計3回実施した。出前授業は各学年1回実施した。次年度は2年生に1回実習を増やし、職業観を養う。(○)
	カ コース制での学習の充実 ＜高等部・進路指導部＞	カ <b>「小さなスキルアップの積み重ね ～卒業後を見据えて、一回り成長していく自分！」</b> ・職業に関する授業の学習グループのMBA-を固定化し各授業が連携を深め、ステップで授業を進める。	カ ・生徒の実態に即した校内実習及びプログラムを提供している企業からの出前授業共に各学年1回以上実施		・現時点で51名中47名の生徒の進路先が決定、10名が(実習・面談等ののち正式に決定)。7名は進路決定に向けて活動中。(現状内訳 企業：6名、A型1名、職訓校：3名、移行：5名、自訓：10名、B型：10名、生介：13名、未定3名その他：1名)次年度も丁寧な進路指導を継続する。(△)
	キ 卒業後の社会参加と自立を見据えた効果的な進路指導 ＜高等部・進路指導部＞	キ <b>「HOP STEP JOB! ～ここから、始まる～」</b> ・1年次よりの校内実習を実施すると共に、職場見学・体験の回数を増加	キ ・高等部3年生について、希望する進路実現100%		・各学年6領域にグループ分けして活動。(火・木10分間)使用できる物品も少しずつ増え、教材教具も充実し、貸出回数も増加した。安定して取組めており、次年度も継続していく。(○)
	ク 個々に応じた自立活動を進める ＜高等部＞	ク <b>「アップデート！パワチャレタイム！」</b> ・生徒の実態に応じて設定した課題毎に分かれての取組を進める。	ク ・自立活動6区分に基づいた課題の精選。		・令和5年度新時間割完成。新様式にてシラバスの運用ができた。次年度は新時間割とシラバスを連動させていく。(○)
	ケ 時間割・シラバスを再編する ＜全校・担当首席＞	ケ <b>「確かな学力・豊かな心・ 健やかな体・育む寝屋川！」</b> ・学習指導要領に示された力を育成するために、時間割・シラバスを再編成する。	ケ ・時間割は令和5年度試行実施、6年度完全実施に向けて完成させる。シラバスは令和4年度より新様式にて実施。		・様式が完成したため、次年度は研究部より書き方の研修を行い、記載内容を充実させる(○)
	コ 小・中・高の「個別の指導計画」を改訂して統一様式に改定 ＜全校・担当首席＞	コ <b>「neyagawaの「個別」は一つ！」</b> ・小学部・中学部・高等部の様式を改訂して統一し、全校で一貫した指導につなげる。	コ ・令和5年度からの活用に向け、統一した「個別の指導計画」の様式を完成。		「指導方針に共感」83%(△)
	(2) 時代にマッチした教育理論を構築する	(2)	(2) 学校教育自己診断の保護者評価 「指導方針に共感」90%以上[87%]		・それぞれの研修をすべて実施した。次年度も研修を重ね自校の取組を洗練させていく。(○)
ア 「自立活動」を再考する ＜支援部＞	ア <b>「支援教育の基礎は自立活動！」</b> ・「自立活動」を基礎から学びなおすとともに「全体の指導」を意識した授業を行う。	ア ・「自立活動」に関する全校研修1回 北河内支援学校4校の自立活動実践動画視聴 [R3 自立活動の基礎基本講座]	・夏季に研修を実施。約92%の満足度。(○)		
イ 応用行動分析に基づく指導支援を行う ＜支援部＞	イ <b>「言動の前後にも注目！」</b> ・指導・支援に応用行動分析の視点を取り入れる。	イ ・応用行動分析に関する全校研修1回 先進的に取組んでいる支援学校教員による実践講座 [R3 臨床心理士による理論講座]	・夏季冬季休業中に学習支援クラウドサービスを用いて家庭と学校を		
ウ 新生活様式に応じた教育を検討・展開	ウ <b>「どこからでも参加できる!話せる!学べる！」</b> ・双方向の学習・懇談等をオンラインで行う。	ウ ・双方向のオンライン学習・懇談の実施体制を整備する。			

府立寝屋川支援学校（高等部）

<p>する 〈全校・健康教育部・オンライン学習PT〉</p> <p>エ 生徒自身がスキルや情報モラルを習得できるICTを活用した取り組みを推進する 〈全校・情報教育部・GIGA スクールPT〉</p> <p>オ 生涯にわたって学ぶ姿勢を支援する 〈視聴覚教育部〉</p> <p>カ 自助の力を育てる防災教育に努める 〈児童生徒指導部・担当首席〉</p> <p>キ 人権感覚を育む 〈高等部〉</p> <p>(3) 次世代教職員を育成する</p> <p>ア 人権感覚を高める 〈全校・高等部〉</p> <p>イ 経験の少ない教員を支援する 〈支援部〉</p> <p>ウ 将来の管理職候補を育成する 〈准校長〉</p>	<p>「いつでも知れる！学べる！」 ・臨時休業対応オンデマンド動画を作成する。</p> <p>「限られた中で最大限の力を！」 ・これまでの行事等を見直す。</p> <p>「普段の頑張りを保護者に！」 ・令和4年度は運動会を学部別に開催する。</p> <p>「安心・安全なプール学習！」 ・感染防止対策を講じてプール学習を実施。</p> <p>エ 「GIGA を使って授業をもっとアタゴに！」 1人1台端末を活用した教育の推進。 「ネヤ・ギガ・どや！」 ・教員のICT活用スキルを向上させる。 「kiki（機器）×kiki（危機）」 ・ICT関連機器を適切に管理する。</p> <p>オ 「life ラリー ライブラリー！」 ・卒業後の余暇活動につながる読書教育を推進する。</p> <p>カ 「安全は一人ひとりの気づきから！」 ・BCP（事業継続計画）を活用した防災研修・防災訓練を行う。</p> <p>キ 「知ろう 学ぼう 人権知識！」 ・平和学習や同和問題等を通して人権を学ぶ。</p> <p>(3)</p> <p>ア 「磨こう人権感覚！ほかほかと温かい心！」 ・体罰、不適切な指導等の防止に努める。 「さんさん(くん)呼称運動で笑顔燦々！」 ・授業においてはさん・くん呼称を付けオフィシャルなものとすると共に、生徒の人権を尊重する。</p> <p>イ 「他学部・他学年を知ろう！」 ・初任者及び希望者が所属学部以外の部の児童生徒の指導支援を行う機会を設ける。 ・高等部教員全員が、他学年の生徒の指導支援を行う機会を設定する。</p> <p>ウ 「学校経営って楽しい！」 ・学校経営の魅力を伝える機会を設定する。</p>	<p>・児童生徒視聴用新規動画の作成 30本</p> <p>・「運動会」「学習発表会」「学習展示会」の実施時期・内容について検討</p> <p>・感染防止対策を講じた実施</p> <p>・プール学習を実施する</p> <p>エ 学校教育自己診断の保護者評価に「1人1台端末の活用」を新設し、肯定的評価70%以上 ・スキルの段階別研修を年1回実施。 (アンケートで「ためになった」80%)</p> <p>・管理台帳（10万円以下）の作成</p> <p>オ 図書委員会の新設 書籍の入れ替え（新規購入・寄贈等を合わせて全書籍の10%）</p> <p>カ 通行困難区域を増やすなど、さらに実際の災害を想定した避難訓練実施2回。</p> <p>キ 講師の招聘・校外学習等を通じた、各学年で年1回以上の人権学習実施。</p> <p>(3) 学校教育自己診断の教職員評価 「初任者、経験の少ない教職員の育成」55%以上[48%]</p> <p>ア 体罰・不適切な指導を起こさないための人権研修を年1回実施 ・学校教育自己診断の教職員評価「人権尊重の姿勢」90%以上[85%] 学校教育自己診断の保護者評価「人権尊重の姿勢」90%以上[84%]</p> <p>イ 十分な準備のもと、他学部の初任者等が丸一日担任を入れ替わり、児童生徒の指導支援を行う。年1回 ・学校生活全般において機会を設定し、生徒の指導支援を行う。一人2回以上</p> <p>ウ 「スクールリーダー養成講座」を開講する。年1回</p>	<p>繋ぎ、オンラインでの近況報告を実施した。接続の問題もあるが、保護者の移動時間も短縮できるため次年度も継続していく。(○)</p> <p>・新型コロナの感染状況から、各学年の作成に関しては1本ずつとしたが、30本に達しなかった。学校全体の臨時休校の可能性が低くなってきたため、次年度、動画作成は実施せずオンライン対応を検討。(△)</p> <p>・「運動会」の1学期実施に伴い、競技内容等について見直しを行った。「学習発表会」については、舞台発表の学年・動画発表の学年を設定し、新しい形で実施することを決定した。「学習展示」は、3学期の懇談等に合わせて各学年等で掲示を行った。次年度は実施状況をみて必要に応じた調整をしていく。(○)</p> <p>・3週にわたり、部毎に実施した。次年度は土日開催で実施予定。(○)</p> <p>・入水前後のシャワーの人数制限や向きの指導、授業の枠を午前午後各1回ずつにして時間的余裕をつくるなどの感染症対策を講じ、プール学習を実施した。PTAより回数少なさを指摘されており、次年度はコロナ前の回数に戻していく。(○)</p> <p>・「1人1台端末の活用」38%(△)</p> <p>・研修を1回実施「ためになった」70%程度、オンライン研修等の紹介を定期的実施した。次年度は具体的な使用方法等の校内研修を実施していく。(△)</p> <p>・管理台帳を作成した。次年度も定期的な確認により機器を大切に活用していく。(○)</p> <p>・古い書籍の廃棄（50冊程度）新規書籍の購入(学校予算で30冊、寄贈で5冊)約8%入れ替え、購入リスト、寄贈リストの作成完了。児童生徒の活用状況は上がっているため次年度は使用頻度が多く見込まれる書籍を検討する(△)</p> <p>・「机上訓練」「初期対応シミュレーション」の実施後、避難訓練を行った。封鎖箇所を設定、避難する時間帯を伝えない形式で実施した。今年度の問題点を改善し次年度の取組につなげていく。(○)</p> <p>・平和学習は授業にてDVD教材視聴学習。同和問題は被差別地域の歴史などについて授業で学習した。その他情報モラルについて外部講師を招聘し授業で学習した。次年度は各学年2回以上実施し、人権意識を高めていく。(○)</p> <p>・「初任者、経験の少ない教職員の育成」48%(△)</p> <p>・密を避けクラス単位で実施した。結果を全校で共有した。次年度も継続して研修を検討していく(○)</p> <p>「人権尊重の姿勢」 ・教職員評価 82%(△) ・保護者評価 79%(△) ・学部間を入れ替わり、他学部の教育活動を経験した。(初任者9名・希望3名)次年度も他学部を知ることにより系統だった指導につなげられるよう継続予定(○)</p> <p>・8月に実施。管理職4人が「やりがい」について講話した。3人の参加があった。教頭試験1名、首席試験1名受験につながる。次年度はミドルリーダーの育成を中心に検討していく。(○)</p>
<p>2 保護者</p> <p>(1) 保護者との連携を深める</p> <p>ア 年度の早期に信頼関係を構築する 〈全校〉</p>	<p>(1)</p> <p>ア 「グッドスタート！」 ・年度当初は、連絡帳・電話・家庭訪問・懇談会等を通じた日々の情報交換を特に丁寧に</p>	<p>(1) 学校教育自己診断の保護者評価 肯定的評価全体平均 86%以上[85%]</p> <p>ア 教職員に対し、年度当初の保護者との連携に関する意識調査を1学期末に実施 肯定的評価 80%以上</p>	<p>・保護者肯定的平均 79%(△)</p> <p>・1学期末に意識調査を実施した。肯定的評価 86%(○)</p>

府立寝屋川支援学校（高等部）

<p>・地域・関係機関との連携</p>	<p>イ 保護者が悩みを専門医に相談できる機会を作る。〈全校〉</p> <p>ウ 保護者から学ぶ〈全校〉</p> <p>(2) 地域との交流を推進する</p> <p>ア あいさつ運動を展開する〈児童生徒指導部〉</p> <p>イ きれいな地域づくりに貢献する〈児童生徒指導部〉</p> <p>ウ 自主単独通学生徒を増やす〈高等部・児童生徒指導部〉</p> <p>(3) よりわかりやすくスピーディーな情報発信を行う</p> <p>ア ほかしなしの情報発信を行う〈全校・情報教育部〉</p> <p>イ 通学バスの位置情報を提供する〈バス部〉</p>	<p>行う。</p> <p>イ <u>「ようこそ、相談室へ！」</u> ・小児発達・精神科の専門医に保護者をはじめ、だれでも気軽に相談できる場を設定する。</p> <p>ウ <u>「保護者に教えてもらおう！」</u> ・「児童生徒を最も理解しているのは保護者である」との再認識のもと、保護者に教えていただきながら本人の指導・支援を行う。</p> <p>(2)</p> <p>ア <u>「マスクがあっても心で通じる ~つながる気持ち~」</u> ・挨拶推進月間を通して挨拶の習慣を身につけ、朝の散歩等の校外での学習に際して、積極的に挨拶を交わし、お互いの理解を深める。</p> <p>イ <u>「みんなでピカピカ楽しくピカピカ 心はボカボカ！」</u> ・寝屋川公園の清掃活動を行い、きれいな地域づくりに貢献し、地域との交流を深める。</p> <p>ウ <u>「はじめよう自主単を！ 身につけよう社会性！」</u> ・保護者と連携し、自主単独通学を通して社会的自立に向けた生活力・応用力を育てる。</p> <p>ア <u>「笑顔こんなに はじけてる！」</u> ・本人・保護者了解のもとで、ほかしなしの児童生徒の活動風景・作品等の情報発信を行う。(年度初めにアンケート実施)</p> <p>イ <u>「安全第一～SAFETY FIRST～」</u> ・見守りソリューションシステムを導入する。</p>	<p>イ ・それぞれの相談会を学期に1回以上実施。</p> <p>ウ ・懇談会・家庭訪問時に、より丁寧に聞き取りを行う。 学校教育自己診断の保護者評価 「子どもの障がい理解」 肯定的評価 90%以上[87%]</p> <p>(2) 学校教育自己診断の保護者評価 「地域との交流」 肯定的評価 78%以上[75%]</p> <p>ア ・挨拶推進月間の実施各学期1回</p> <p>イ ・各学期1回実施(中学部・高等部)</p> <p>ウ ・自主単独通学高等部生徒の今年度当初比 90%増加。</p> <p>(3) 学校教育自己診断の保護者評価 「わかりやすい情報発信」95%維持 [96%]</p> <p>ア ・ほかしなしの情報発信を継続</p> <p>イ ・見守りソリューションシステムを導入し運用する</p>	<p>・小児発達は校長マネジメントに予算を計上して実施。 精神科相談を5回、発達相談を3回実施済み。毎回5～6件程度の申し込みあり。今年度から担任を同席する回を設定した。発達相談については次年度も継続予定(○)</p> <p>・家庭訪問、懇談では、保護者との貴重な面談となるため、丁寧に聞き取り、内容を学年・クラス担任と共有。日頃より連絡帳や電話連絡で、児童について情報を共有し、支援方法を考えている。また、必要に応じて不定期で、懇談会や家庭訪問を実施し、より保護者・本人に寄り添った支援を行えるようにした。 ・「子どもの障がい理解」84%(△) ・「地域との交流」76%(△)</p> <p>・毎日実施することで、元気に挨拶する姿が見られた。プラカードを使っただけの挨拶も実施した。次年度は保護者や外部から来られた方々に対しても挨拶できるよう意識づけを行っていく。(○)</p> <p>・学校付近の清掃、寝屋川公園の落ち葉拾いや花の苗植えを行った。次年度も寝屋川公園との連携を行い公園で実施されるイベントで販売学習等も検討していく。(○)</p> <p>・保護者と連携を図ったり、登下校の際に自主単集会を行ったりし、安全に留意した。自主単の人数は増えたが、90%には達しなかった。地域的に交通の便から難しさはあるが、次年度も社会的自立に向けて取り組みは継続していく。(△) ・「わかりやすい情報発信」89%(△)</p> <p>・ブログにほかしなしの活動風景を掲載した。保護者から「生き生きした表情が見られてよかった」との声をいただいた。次年度は各学部学年より学期1回以上更新する。(○)</p> <p>・通学バス運行開始前に、アプリ「知らせてビューア」により、位置情報を確認して保護者に情報提供できた。また、アプリの不具合などで位置情報が表示されていない場合、通学バスへ連絡し、再起動を依頼することで保護者へ正常な位置情報を提供することができた。(○)</p>
<p>3 働き方改革</p>	<p>(1) 同僚性の高い職場づくりを行う</p> <p>ア 適材適所の人事配置を行う〈校長〉</p> <p>イ 学びあう雰囲気を作り出す〈全校〉</p> <p>(2) 業務の効率化・平準化を行う</p> <p>ア デジタル化を推進する〈全校・担当首席〉</p> <p>イ ペーパーレス化を推進する〈教務部〉</p> <p>ウ 物品の管理・整理方法を見直す〈全校・部主事〉</p>	<p>(1)</p> <p>ア <u>「得意分野での力の発揮で、互いにリスペクト！」</u> ・これまでの実績を参考にしつつも「やってみよう」という気持ちを大切に人事配置を行う。</p> <p>イ <u>「寝屋川サロン open！ ~学ぶって楽しい~」</u> ・教員同士の学びあいの場を作る</p> <p>(2)</p> <p>ア <u>「ラク(楽)してはたラク、システムづくり！」</u> ・「グループウェア」や「表計算ソフト」の活用を検討し、活用を全校的に進める。</p> <p>イ <u>「ペーパーレス化で、神(紙)ですか?!」</u> ・資料の印刷・配付といった無駄な仕事を減らす。</p> <p>ウ <u>「もったいない! 大事に使おう! 使うモノへ！」</u> ・学校備品・教材備品の管理と整理整頓を行い、業務の効率化に資する。</p>	<p>中間的目標全体 「業務の効率化・標準化」65%以上 (1)</p> <p>ア ・学校教育自己診断の教職員評価 「適正配置」50%以上[45%]</p> <p>イ ・「授業データベース」の活用を推進する 学校教育自己診断の教職員評価 「授業方法等の検討」55%以上[51%]</p> <p>(2) 学校教育自己診断の教職員評価 「業務の効率化・平準化」 肯定的評価 55%以上[51%]</p> <p>ア ・「グループウェア」や「表計算ソフト」の活用を広げる。</p> <p>イ ・会議資料等のドライブでの保存・共有・蓄積を推進する。</p> <p>ウ ・保管方法を統一し、リスト化とラベル付けを実施する。</p>	<p>「業務の効率化・標準化」45%(△)</p> <p>・今年度は分掌業務の内容を見える化し、分掌再編を行った。教員が入れ替わっても分掌業務ができるよう調整した。次年度、再編に伴う不具合については、適宜修正していく 「適正配置」33%(△)</p> <p>・「授業方法等の検討」70%(◎)</p> <p>・指導教諭が授業に入ることにより、学び合いの環境が構築できた。次年度も引き続き実施していく。 ・「業務の効率化・平準化」45%(△)</p> <p>・専用ポータルサイトを運用、教職員向け情報の集約・発信を行った。次年度も不定期ではあるが、情報共有のため継続した取組を実施予定(○)</p> <p>・実験的に教務部会の資料はデータ配信。教務からの校内全体連絡もデータ化。これに伴い、様々な会議でペーパーレス化が進んだ。次年度も継続していく(○)</p> <p>・学期末に学部共有備品と学年管理備品の整理、点検を実施。保管場所を管理者のリスト化した。新規購入備品にはラベル付けを行い、管理</p>

## 府立寝屋川支援学校（高等部）

	<p>エ PC 内の構造化と仕事の見える化を行う&lt;全校・部主事&gt;</p> <p>(3) 業務推進体制を再構築する&lt;全校&gt;</p> <p>ア 首席を学校経営の要として配置する</p> <p>イ 校務分掌の配置人数を見直す&lt;准校長&gt;</p> <p>ウ 各部署が学校経営に自律的に参画する&lt;全校・各部署&gt;</p>	<p>エ <b>「仕事サクサク・効率アップ！」</b> ・PC 内のフォルダを構造化するとともに、各部署の仕事内容をフローチャート化する。</p> <p>(3)</p> <p>ア <b>「鍋蓋型からピラミッド型へ！」</b> ・各首席が2つずつの校務分掌を統括する体制を整える。</p> <p>イ <b>「行事の時だけ？それとも通年？ 総合的に配置しなおります！」</b> ・業務量を総合的に把握し、配置する。</p> <p>ウ <b>「自主自律の学校経営を！」</b> ・学校経営計画にそれぞれの項目の「推進部署」を明記し、PDCA サイクルに基づき計画を推進する。</p>	<p>エ ・PC 内はカテゴリーごとにナンバリングする。各部署でフローチャート図を作成する。</p> <p>(3) 学校教育自己診断の教職員評価「業務分担と学校経営への参画」肯定的評価 50%以上[44%]</p> <p>ア ・各首席が2つの校務分掌を統括。</p> <p>イ ・人数の再配置。</p> <p>ウ ・管理職が各部署の担当者に対し、推進計画ヒアリング、進捗ヒアリング、達成ヒアリングを実施する。また、その様子を各部署でビデオ共有する。</p>	<p>者・管理場所を明確にした。職員室の整理整頓も行い、年間を通して、職員室内の不要物品 53.4kg の処分を行った。次年度も整理整頓された環境を維持するため、継続的に点検していく。(○)</p> <p>・大元となる校内組織図は完成。フローチャートは次年度からの運用に向けインターネットモード、セキュリティモードのデータを仕分けし、フローチャートを作成した。(○)</p> <p>・「業務分担と学校経営への参画」33% (△)</p> <p>・2分掌を統括し、分掌長と適宜連携を図り、業務を推進した。次年度は教務以外の首席は分掌内に所属せず、首席内で総括を配置し、効率的な運用につなげる。(○)</p> <p>・次年度の分掌組織を再編した。人事の確認後人数配置を検討 (△)</p> <p>・各ヒアリングを実施し、ビデオ撮影を行った。セキュリティモードに保存完了。ビデオ共有について職員会議で周知した。次年度はビデオの閲覧件数が少ないため、要点をまとめたデータに移行する。(○)</p>
4 地域支援	<p>(1) 北河内支援学校相談サポートセンター(KSC)による「研修サポート」を行う&lt;支援部、L.S.&gt;</p> <p>ア 「支援教育公開講座」を行う</p> <p>イ 研修講師の派遣を行う</p> <p>(2)北河内支援学校相談サポートセンター(KSC)による「相談サポート」を行う&lt;支援部、L.S.&gt;</p> <p>ア 悩みを共有し「KI TADE」を活用しながら実践のサポートを行う</p> <p>(3) 学校全体で地域支援を行う&lt;L.S.、全校&gt;</p> <p>ア 「登録相談員」による地域支援を行う</p>	<p>(1)</p> <p>ア <b>「学びのエエとこどり！」</b> 北河内の支援教育コーディネーターが連携・協働して、夏季休業中に地域のニーズに合わせた「支援教育公開講座」を開催する。</p> <p>イ <b>「夢中になれる学びの場！」</b> 市教育委員会・学校園からの要請を受け、研修講師の派遣を行う。</p> <p>(2)</p> <p>ア <b>「支援の輪を広げよう！」</b> ・就学前施設への支援を充実させる。特に私学幼稚園への定期的な支援により合理的配慮を浸透させる。 <b>「社会へ羽ばたく力をつけよう！」</b> ・支援教育サポート校と連携し、高等学校(含私学)等への相談支援を進める。</p> <p>(3) <b>「マンパワーの地域支援！」</b></p> <p>ア 開設した「登録相談員」制度を用いて、校内の教員の得意分野等に基づいて、情報提供や実際の相談等をリーディングスタッフとともにを行う。</p>	<p>中期的目標全体 「訪問相談・来校相談アンケート」90%以上</p> <p>(1)</p> <p>ア ・5講座を開講する。感染症の状況によっては、WEB による形で開催し、実施後のアンケートで研修内容の肯定的評価 95%以上維持[95%]</p> <p>イ ・すべての要請に対応する [支援回数 56 回(訪問・来室・電話相談、研修講師)]</p> <p>(2) 相談実施後の「訪問相談・来校相談アンケート」における肯定的評価 90%以上維持[90%]</p> <p>ア ・就学前施設(含私学)への相談支援・研修等を3回以上、実施する。</p> <p>・高等学校(含私学)への相談支援・研修等を2回以上、実施する。</p> <p>(3)</p> <p>ア ・年5回以上、登録相談員による相談を行う。</p>	<p>中期的目標全体 「訪問相談・来校相談アンケート」今年度より教育庁からのアンケートがなくなったため評価なし。</p> <p>・申し込み数約 400 名。満足度 97%であった。次年度からは各校での取組に変更となる(○)。</p> <p>・支援回数 60 回実施 訪問相談：29 回 研修講師：25 回 電話・来室相談：3回 その他(検査器具貸出)：3回 全ての要請に対応した(○)</p> <p>・今年度より教育庁からのアンケートがなくなったため評価なし。</p> <p>・公立幼稚園 1回(相談)私立幼稚園 3回(相談)実施した。次年度も要請があれば実施していく。(○)</p> <p>・相談1回 研修1回 * 高等学校支援教育サポート校の枚方なぎさ高等学校と連携して実施した。次年度も要請があれば実施していく。(○)</p> <p>・夏季休業中に1名(研修講師に同行【2回】)実施(△) 次世代のコーディネータ育成を視野に入れ相談業務にあたる教員を育成していく。</p>